

横浜市立 みなとみらい本町小学校 令和 4 - 6 年度版 中期学校経営方針 (令和 6 年度修正)

学校 教育 目標	『「みな」と「みらい」を創る子』 ○多様性を認められる …自分の内面と向き合い、自他の違いを認め、多様な文化や価値観を他者と共有しながら協働することで、自分なりの考えを見出せる子 ○多面的・多角的に物事を捉える…一つの側面だけでなく、様々な立場や視点で物事を柔軟にとらえられる子 ○問いを見いだして学び続ける…繰り返し身近なものに問題意識をもち、探究的に解決することを通して、よりよい社会や生活を創ろうとする子 ○まちに愛着をもつ…まちと学び、これからの私たちのまちの未来をとらえ、語ったり考えたり、行動したりし、このふるさとに誇りもつ子 ○豊かな心をもつ…豊かな感性を養いながら、多様ななかかわりの中で自己の心身と向き合い、豊かな心や健やかな体を育む子				
	学校 概要	創立 7 周年	学校長 小正 和彦	副校長 坂入 亮太	2 学期制 一般学級: 14 個別支援学級: 3 児童生徒数: 420 人 主な関係校: 横浜吉田中学校 本町小学校

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	横浜吉田中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<グローバル化の中で生きる力> <自分づくりに関する力> <確かな学力>	横浜吉田中学校 本町小学校 南吉田小学校	持続可能な未来の社会を創る担い手として ◎まちを愛し、役立つ意識を高め、関わり・つながりを大切に子ども ◎多様性を尊重し、共生する力をもつ子ども ◎自分を律し、人を思いやる優しさをもつ子ども ◎学びの基礎・基本を身につけ、心身ともにたくましく生きる子ども ◎身につけた知識・技能のもと主体的、協働的に課題解決に向かう子ども

中期 取組 目標	<p>社会(まち・ひと)とつながり、多様な文化や価値観を取り入れながら広い視野で物事を捉え、現代社会における課題の解決に向けて行動できる、持続可能な社会形成を担うグローバルな人材の育成を目指します。</p> <p>○子どもたちが、課題を見出し、解決に向けて、試行錯誤しながら活動を進められるようにします。</p> <p>○子どもたちが、多様な他者とのコミュニケーションを図り、活動の価値に気付けるようにします。</p> <p>○子どもたちが、ものごとを前向きに捉え、自分らしさを発揮できるような教育活動を展開します。</p> <p>○地域の多様な人々(企業・NPO・公的機関・ESD推進校など)が、本校の取組に関心をもち、協力・連携が進むようにします。</p> <p>○保護者が、本校の取り組むESDの価値を認識し、協働できるようにします。</p> <p>○教職員は、学校全体でのESDへの取組を通して、子どもたちの自己有用感を高め、地域性・時代性と合致した学校づくりを進めます。</p>
----------------	--

重点取組分野		具体的取組
知	授業改善	①課題解決型の学習を進め、子どもたちは「何を」「どのように」学んだのかの振り返りを通して、成長を実感できるようにする。 ②個に応じた支援に努めるとともに、協働的な学びの充実を努める。 ③タブレット端末等を有効的に活用しながら学習形態や方法などを工夫した分かりやすい授業づくりに取り組む。 ④重点研究、メンター研に授業改善を位置づけて取り組む。
担当	チームA(学力向上)	
徳	人権・道徳教育	①様々な人との関わり(友達・異学年・地域)を重視したESD活動や福祉教育を通して、自他のよさや違いを認め合い、互いの人権や生命を尊重する子の育成をめざしていく。 ②人権週間や日々の授業等における子ども自身も人権課題について考える学びや たてわり(異学年)活動の充実をはかる。
担当	特活部・道徳部	
体	健康教育	①週1回の体力アップタイム(短縄・長縄・持久走)を年間を通して行うことで、児童が運動に親しみをもち、体力向上を目指すことのできる環境づくりに取り組む。 ②ゲーム形式の運動や関わり合いながら運動に親しめる内容を取り入れることで、質・量共に充実させる。 ③養護教諭や栄養教諭と連携して心の健康や食育に取り組み、自身の生活と健康を見つめ直す機会を設定する。
担当	体育部	
公開	ESD/SDGs	①ESD/SDGsを「UNPACK」したESDロジックモデルを活用した学校運営を行うとともに、子どもがより学びの主体となって進められるように学級ごとのESDロジックモデルをもとにした実践を進めていく。 ②地域の活動主体と協働した教育活動を進め、社会に働きかけるよう取り組みから、まちの一員・社会の一員としての子どもの意識を高めていく。
担当	研究部	
いじめへの対応		①毎月いじめ防止対策委員会を実施し、認知された案件の実態把握と指導方針の検討、丁寧な経過確認をすることで、再発防止に努める。また、研修等を通して、全職員の意識を高め、未然防止・早期発見・早期対応に努める。 ①年2回のいじめアンケートや教育相談を行い、児童の実態把握に努めるとともに些細な変化を見逃さない体制づくりをする。
担当	全職員	
人材育成・ 組織運営(働き方)		①学年研・M研・メンター研と4年生以上は「チーム学年経営」を活用して、児童・教科指導のノウハウを共有しつつ、実践力を高めていく。木曜5校時を設けて、研究日とする。 ②気付いたことを気軽に声をかけられる「チームMMH」としてのセキュアベースを目指し、業務チームや学年ブロックでフォローをし合う。
担当	研究部・教務部	
地域学校協働活動		①地域学校協働本部が学校と家庭・地域をつなぎ、より多くの保護者・地域が教育活動に参画できるようにする。 ②学校運営協議会での関係者評価を進め、児童・保護者・地域の声を学校運営に生かし、地域全体でよりよい学校づくりを目指す。
担当	教務部	
特別支援教育		①毎週末の児童情報共有や月1回の特別支援委員会を活用し、個に応じた適切な支援を進める。特別支援教室や国際教室の充実を図るとともに、個別的教育支援計画・個別の指導計画の見直しと実践を進め、学校がどの子にも居場所となるセキュアベースづくりを目指す。 ②児童の考えを取り入れつつ、必要感のある学校スタンダードへの見直しを進める。
担当	チームA(児童指導)	
ICT活用		①情報教育全体計画をもとに、情報モラルの時間を毎月設けて、系統立てて全校児童で実施する。タブレット端末を活用した個に応じた指導法の共有を進める。 ②図書館教育指導計画をもとに、図書館の計画的な利用と菜の会などと連携した読書活動の推進をする。 ③ICT活用による、保護者の負担軽減に努める。
担当	チームB(ICT)	
担当		